

【鉱山開発の様子 — 「佐州金銀採製全図・地」より—】

佐渡には西三川金山、鶴子銀山など多くの鉱山が点在しています。佐渡鉱山は、佐渡を支配するようになった上杉氏のもとで、16世紀末から金銀の採掘が行われるようになり、17世紀に本格的な開発が始まりました。

当館所蔵『佐州金銀採製全図』は、3巻で構成された江戸時代の絵巻物で、佐渡鉱山の採掘・精錬から小判の製造までの工程が描かれています。

鉱山開発の様子を、絵巻の複製にてご紹介いたします。

なお、3巻の全画像は貨幣博物館ホームページ(デジタル資料室)にてご覧いただけます(請求番号2-1 B 2 4~6)。

1 坑道入口付近(「金銀山岡向之図」)

鉱山入口付近の様子です。石撰建場(鉱石選別所)、鍛冶小屋などが描かれています。



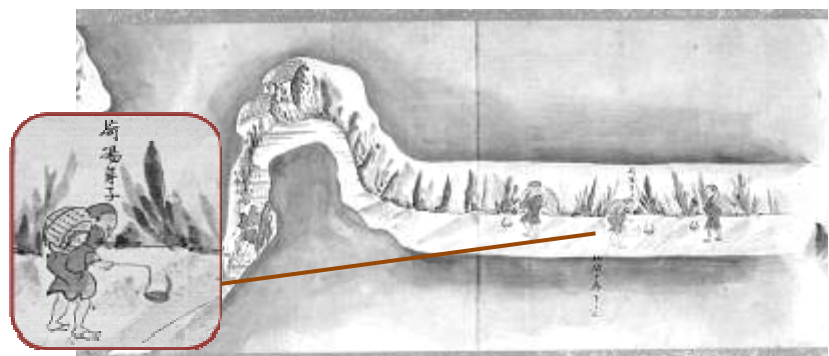
2 坑道入口(「金銀山敷内稼方之図」2~8)

鳥居型に柱が立てられ、「大山祇尊」が祀られています。



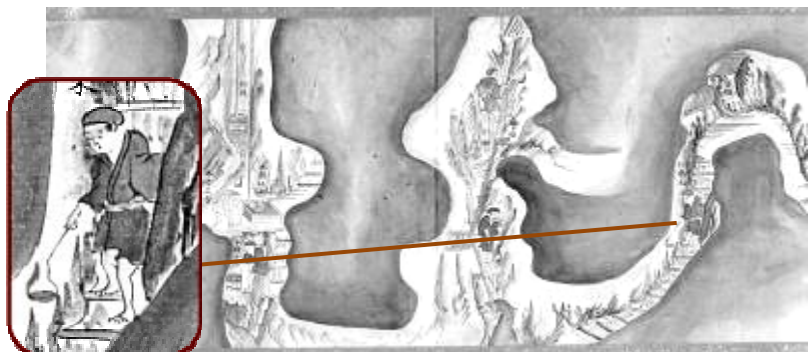
3 坑道廊下

釣りともしを持った「荷揚穿子」が鉱石を運んでいます。



4 坑道の傾斜部分

坑内の傾斜部には階段状に「打替木」などを設置しています。また「留棚」などにより地盤が補強されています。



5 坑道の排水

鉱脈を掘り進めると、湧き水が出て、排水が必要となります。

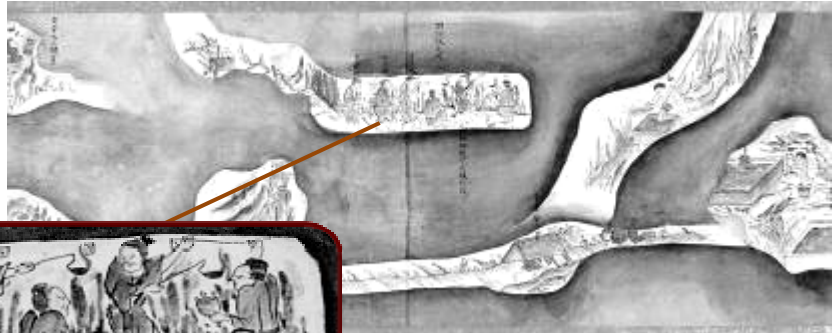
「水替」の者が桶などを使って排水しています。



6 鉱脈を探す

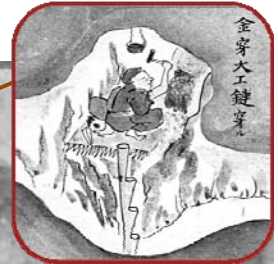
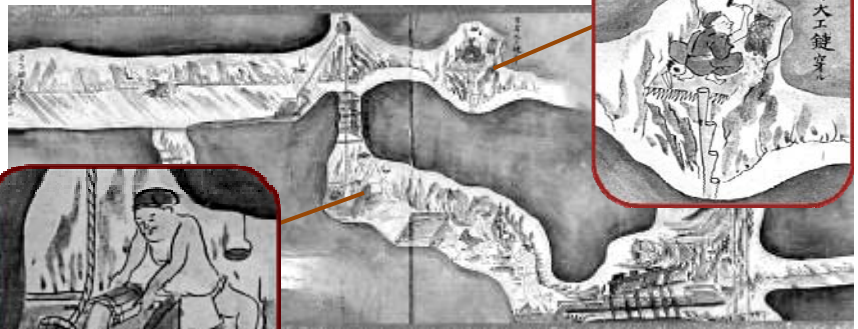
鉱脈を探すために掘る坑道を間切といいます。

「目付役」が、測量を行う「振矩師」と共に鉱脈の検分を行っています。



7 坑道の様子

鉱石を掘る「金穿大工」や、排水作業（水替）を行う坑夫の姿が描かれています。



8 坑道の様子

鉱脈が見つかり、金穿大工は鉱脈を掘り進めます。



9 坑道入口(「金銀山岡向働方之図」9~11)

坑道の外でも、さまざまな作業が行われています。

「釜之口」付近では、坑道の地盤を補強する山留のための木材の加工をしています。



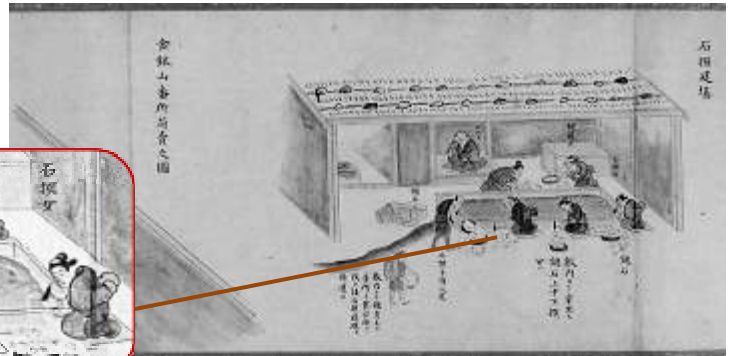
10 鍛冶小屋

坑内で使用する鑿や鋤などの製作や修理が行われています。



11 石撰建場

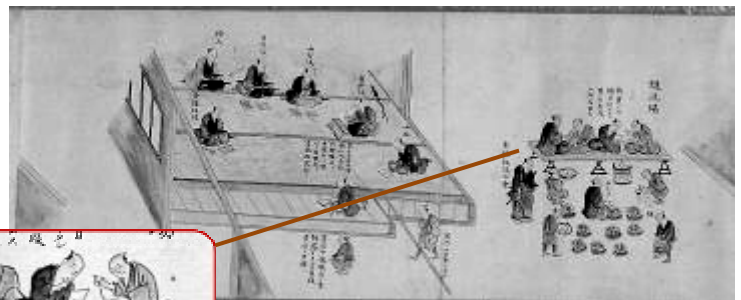
掘り出された鉱石を「石撰女」が水洗いし、品位により上中下に分けます。



12 荷売(「金銀山番所荷賣荷分之図」)

金銀改役立会のもと、精錬業者の目利きが鑑定し、鉱石の入札を行います。

入札場へ出入する人は、盗難防止のため横木をまたがせます。



13 荷売(「金銀吹方之図」より)

12の後、製錬(鉱石から金属を取り出す工程)を行い、純度を高める精錬作業を行います。

描かれている「灰吹床」では、金と銀が吹き分けられます。



本来、12の後には「金銀錬石粉成方之図」の工程が入るが、図鑑作成の際に誤って張り込まれ、「金銀吹方之図」の途中が繋がれている。

(『佐州金銀採製全図・天』2-1-B2-5, 当館ホ-ムページ写真 No. 75 の途中に入る図)

【佐渡鉱山で使用された道具】

当館所蔵『佐州金銀採製全図』に描かれた採掘道具と佐渡鉱山で使用されたと考えられる道具を合わせてご紹介します。



頭巾

鉱山を掘る労働者が使用した頭巾です。



釣りともし・灯明皿

油に火をともした灯明皿を釣りともしにつるし、作業にあたりました。



金鉱石

岩盤を砕いて採掘された金鉱石です。



タガネ

鉱石の掘削に使用します。



【主な展示資料】

資料名	年代
開元通宝	621(武徳4)年
周元通宝	955～958(顯徳2～5)年
宋通元宝	960(建隆1)年
皇宋通宝	1038～1039年(宝元年間)
熙寧元宝	1068～1077年(熙寧年間)
熙寧重宝 大錢	1073(熙寧6)年
熙寧通宝 鉄錢	1074(熙寧7)年
熙寧通宝 鉄大錢	1074(熙寧7)年
元豊通宝	1078(元豊1)年
元豊通宝 折二錢	1078(元豊1)年
元祐通宝	1086～1093(元祐1～8)年
元祐通宝 折二錢	1086～1093(元祐1～8)年
元祐通宝 折二錢 鉄錢	1086～1093(元祐1～8)年
崇寧重宝 当五錢	1102(崇寧1)年
崇寧重宝 当十錢	1104(崇寧3)年
淳熙元宝	1174(淳熙1)年
慶元通宝	1195(慶元1)年
至大通宝	1310(至正3)年
至正通宝	1350(至大10)年
天贊通宝(遼)	922～925年(天贊年間)
正隆元宝(金)	1158(正隆3)年
乾祐元宝(西夏:真書)	1171～1193年(乾祐年間)
乾祐元宝(西夏:西夏文字)	1171～1193年(乾祐年間)
大中通宝(一文)	1361(至正21)年
大中通宝(折二錢)	1361(至正21)年
大中通宝(当十錢)	1361(至正21)年
洪武通宝(一文)	1368(洪武1)年
洪武通宝(折二錢)	1368(洪武1)年
洪武通宝(一錢)	1368(洪武1)年
洪武通宝(五錢)	1368(洪武1)年
洪武通宝(一兩)	1368(洪武1)年
永楽通宝	1411(永楽9)年
元紙幣原版(至元通行宝鈔)	1287(至元24)年
大明通行宝鈔	1375(洪武8)年発行
銀錠 50兩 大分銅型	960～1279年(宋代)
銀錠 50兩 大分銅型	1271～1368年(元代)
銀錠 小分銅型	1276～1277年(宋代 景炎年間)
銀錠 小分銅型	1123～1134年(金代 天会年間)
銀錠 小分銅型	1271～1368年(元代)
銀錠 ? 型	1329(天曆2)年(元代)
ターレル銀貨(ボヘミア)	16世紀
鑄写鐙錢	12～16世紀
島錢	12～16世紀
大世通宝	1454～1460年
世高通宝	1461～1469年
中山通宝	1477～1526年
鳩目錢	16～17世紀
封印錢(大型)	16世紀
封印錢(小型)	16～17世紀
加治木錢	16～17世紀
錢壺	16世紀頃
寛永通宝100文緞	江戸時代
錢緞(一貫文)	江戸時代
国家金銀錢譜	江戸時代
錦絵「教導立志基 青砥藤綱」	明治初期
無文錢(堺市出土)	複製品
無文錢鑄型(堺市出土)	複製品
永楽通宝枝錢(茨城県東海村出土)	複製品

サテライト展示「金と銀の国 日本 一戦国大名と鉱山開発」

資料名	年代
蛭藻金	16世紀
譲葉金	16世紀
天正越座金	1574～1578(天正2～6)年
円歩金	1596～1598(慶長1～3)年頃
天正大判	1588(天正16)年
永楽通宝(金銭)	1587(天正15)年
永楽通宝(銀銭)	1587(天正15)年
天正通宝(金銭)	1587(天正15)年
天正通宝(銀銭)	1587(天正15)年
筑前博多御公用銀	1593(文禄2)年
山口天又銀	1593(文禄2)年
石州銀	16世紀
石州銀(萩銀判)	16世紀
石州文禄御公用銀	16世紀
御公用銀	16世紀
甲州金(古金) 露一両金	16～17世紀
甲州金(古金) 松木一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 野中一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 志村一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 山下一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 二分一朱金	16～17世紀
甲州金(古金) 一分一朱金	16～17世紀
甲州金(古金) 一分朱中糸目金	16～17世紀
甲州金(古金) 二朱中糸目金	16～17世紀
甲州金(古金) 二朱中小糸目金	16～17世紀
甲州金(古金) 角二分金	16～17世紀
甲州金(古金) 角一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 角二朱金	16～17世紀
甲州金(古金) 吉一分金	16～17世紀
甲州金(古金) 一分金(太鼓判)	16～17世紀
甲州金(古金) 駒露金	16～17世紀
甲州金(新金) 甲重金	1707(宝永4)年～1717(享保2)年
甲州金(新金) 甲安金	1721(享保6)年～1724(享保9)年
甲州金(新金) 甲定金	1727(享保12)年～1732(享保17)年
甲州金(新金) 一両金	17～19世紀
甲州金(新金) 一分金	17～19世紀
甲州金(新金) 一朱金	17～19世紀
甲州金(新金) 一朱中金	17～19世紀
甲州金(新金) 一糸目金	17～19世紀
タガネ(佐渡鉱山関係用具)	—
金鉱石(佐渡鉱山関係用具)	—
頭巾(佐渡鉱山関係用具)	—
釣りともし(佐渡鉱山関係用具)	—
灯明皿(佐渡鉱山関係用具)	—
佐州金銀採製全図	江戸時代
石見国銀山旧記	江戸時代
銀山旧記	江戸時代
三貨図彙	1815(文化12)年初版
金銀図録	1823(文政6)年初版

【主要参考文献】

○著書

- 青木国夫・葉賀七三男編『江戸科学古典叢書 1 佐州金銀採製全図ほか』恒和出版、1976年
- 阿諏訪青美『中世庶民信仰経済の研究』《歴史科学叢書》校倉書房、2004年
- 愛宕松男訳注『東方見聞録 1』《東洋文庫 158》平凡社、1982年
- 網野善彦『日本中世史科学の課題』弘文堂、1996年
- 網野善彦『日本中世都市の世界』筑摩書房、1996年
- 網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』岩波書店、1984年
- 安野真幸『築市論—初期信長の流通政策』《叢書・歴史学研究》法政大学出版局、2009年
- 池享編『銭貨—前近代日本の貨幣と国家』青木書店、2001年
- 石田尚豊編『日本の美術 132 職人尽絵』至文堂、1977年
- 市古尚三『明代貨幣史考』鳳書房、1977年
- 井原今朝男『中世の借金事情』《歴史文化ライブラリー265》吉川弘文館、2009年
- 伊原弘編『宋銭の世界』勉誠出版、2009年
- 今村啓爾『戦国金山伝説を掘る—甲斐黒川金山衆の足跡』平凡社、1997年
- 宇佐見隆之『日本中世の流通と商業』吉川弘文館、1999年
- 浦長瀬隆『中近世日本貨幣流通史—取引手段の変化と要因』勁草書房、2001年
- 遠藤亀松『元朝銭史の研究』遠藤亀松、1981年
- 大庭康時・佐伯弘次・菅波正人・田上勇一郎編『中世都市・博多を掘る』海鳥社、2008年
- 小田富士雄・平尾良光・飯沼賢司編『経筒が語る中世の世界』思文閣出版、2008年
- 小野晃嗣『日本中世商業史の研究』《叢書・歴史学研究》法政大学出版局、1989年
- 小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『モノとココロの資科学』高志書院、2005年
- 勝侯鎮夫編『中世人の生活世界』山川出版社、1996年
- 加藤繁『中国貨幣史研究』《東洋文庫論叢 56》東洋文庫、1991年
- 神木哲男『日本中世商品流通史論—荘園商業の展開と生産構造』有斐閣、1980年
- 川戸貴史『戦国期の貨幣と経済』吉川弘文館、2008年
- 神崎勝『冶金考古学概論』雄山閣、2006年
- 神田信夫編『世界歴史大系 中国史 4 明〜清』山川出版社、1999年
- 岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年
- 鍛代敏雄『中世後期の寺社と経済』思文閣出版、1999年
- 京都大学近世物価史研究会『15〜17世紀における物価変動の研究』読史会、1962年
- 黒田明伸『貨幣システムの世界史—（非対称性）をよむ』岩波書店、2003年
- 黒田基樹『戦国期の債務と徳政』《歴史科学叢書》校倉書房、2009年
- 桑山浩然『室町幕府の政治と経済』吉川弘文館、2006年
- 小泉袈裟勝『度量衡の歴史』原書房、1977年
- 国立歴史民俗博物館編『中世商人の世界』日本エディタースクール出版部、1998年
- 小葉田淳『貨幣と鉱山』思文閣出版、1999年
- 小葉田淳『日本鉱山史の研究』岩波書店、1968年
- 小葉田淳『続日本鉱山史の研究』岩波書店、1986年
- 小葉田淳『日本貨幣流通史』刀江書院、1969年
- 桜井英治『破産者たちの中世』《日本史リブレット 27》山川出版社、2005年
- 桜井英治『日本中世の経済構造』岩波書店、1996年
- 桜井英治・中西聡編『流通経済史』《新体系日本史 12》山川出版社、2002年
- 桜木晋一『貨幣考古学序説』慶応義塾大学出版会、2009年
- 佐々木銀弥『中世の商業』至文堂、1961年
- 佐々木銀弥『中世商品流通史の研究』《叢書・歴史学研究》法政大学出版局、1972年
- 笹本正治『異郷を結ぶ商人と職人』《日本の中世 3》中央公論新社、2002年
- 佐竹昭広ほか編『新日本古典文学大系 6 1 七十一番職人歌合』岩波書店、1993年
- 斯波義信編『世界歴史大系 中国史 3 五代〜元』山川出版社、1997年
- 新編森克己著作集編集委員会編『新訂 日宋貿易の研究』『続日宋貿易の研究』《新編 森克己著作集 第1・2巻》勉誠出版、2008-2009年
- 鈴木公雄『出土銭貨の研究』東京大学出版会、1999年
- 鈴木公雄編『貨幣の地域史』岩波書店、2007年
- 鈴木敦子『日本中世社会の流通構造』《歴史科学叢書》校倉書房、2000年
- 全漢昇『中国経済史研究』、崇文書店、1975年
- 高橋弘臣『元朝貨幣政策成立過程の研究』東洋書院、2000年
- 滝沢武雄『宛券の古文字学的研究』東京堂出版、2006年
- 谷口一夫『武田軍団を支えた甲州金 湯之奥金山』《シリーズ 遺跡を学ぶ 39》新泉社、2007年
- 檀上寛『明朝専制支配の史的構造』汲古書房、1995年
- 東北中世考古学会『中世の出土模範銭』《東北中世考古学叢書 1》高志書院、2001年
- 豊田武『豊田武著作集 1 座の研究』吉川弘文館、1982年
- 永井久美男『中世出土銭の分類図版』高志書院、2002年
- 中沢辨次郎『日本米価変動史』明文堂、1933年
- 西脇康編『新修甲金図—『甲斐国志』甲金図の再分類』書信館出版、2003年
- 日本銀行調査局『図録 日本の貨幣 1』東洋経済新報社、1972年
- 橋本久和・市村高男編『中世西日本の流通と交通』高志書院、2004年
- 長谷川利平次『佐渡金銀山史の研究』近藤出版社、1991年
- 早島 大祐『首都の経済と室町幕府』吉川弘文館、2006年
- 日野開三郎『東洋史学論集 第6巻』三一書房、1983年
- 藤木久志『雑兵たちの戦場—中世の傭兵と奴隷狩り』朝日新聞社、1995年
- 彭信威『中国貨幣史』上海人民出版社、1958年
- 本郷恵子『日本の歴史 6 京・鎌倉ふたつの王権』小学館、2008年
- 本郷恵子『中世人の経済感覚—「お買物」からさぐる』日本放送出版協会、2004年
- 本田総一郎監修『新集家紋大全』梧桐書院、1986年
- 本多博之『戦国織豊期の貨幣と石高制』吉川弘文館、2006年
- 前田直典『元朝史の研究』東京大学出版会、1973年
- 松村恵司編『日本の美術 512 出土銭貨』至文堂、2009年
- 馬淵和雄『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社、1998年
- 水野恭一郎『武家時代の政治と文化』創元社、1975年
- 峰岸純夫・村井章介編『中世荘園公領制と流通』《中世史研究叢書 17》岩田書院、2009年
- 峰岸純夫・村井章介編『中世東国の物流と都市』山川出版社、1995年
- 三宅俊彦『中国の埋められた銭貨』《世界の考古学 12》同成社、2005年
- 宮澤知之『宋代中国の国家と経済—財政・市場・貨幣—』創文社、1998年
- 宮澤知之『中国銅銭の世界—銭貨から経済史へ—』思文閣、2007年
- 宮下忠雄『中国幣制の特殊研究』日本学術振興会、1952年
- 村井 章介・佐藤 信・吉田伸之編『境界の日本史』山川出版社、1997年

村上隆 『金・銀・銅の日本史』《岩波新書 1085》岩波新書、2007年
 歴史学研究会編『越境する貨幣』《シリーズ歴史学の現在 1》青木書店、1999年
 脇田晴子 『日本中世商業発達史の研究』御茶の水書房、1969年
 和田清編 『明史食貨志訳註』《東洋文庫論叢 40》東洋文庫、1957年

O論文

足立啓二 「中国から見た日本貨幣史の二・三の問題」『新しい歴史学のために』203、1991年
 足立啓二 「東アジアにおける銭貨の流通」荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史Ⅲ 海上の道』東京大学出版会、1992年
 足立啓二 「専制国家における財政」『中国専制国家と社会統合 中国史像の再構成 2』文理閣、1990年
 足立啓二 「初期銀財政の歳出入構造」『山根幸夫教授退休記念明代史論叢（下）』汲古書院、1990年
 有馬香織 「兵庫北開入船納帳にみる開通過手続と経営一室町中期の事例一」『史学雑誌』117-12、2008年
 衣川強 「宋代の俸給について一文臣官僚を中心として」『東方学報』（京都大学人文科学研究所）41、1970年
 石井進 「銭百文は何枚か」『石井進著作集 10 中世史と考古学・民俗学』岩波書店、2005年
 石井進 「中世と考古学一地域研究の視点一」『石井進著作集 10 中世史と考古学・民俗学』岩波書店、2005年
 石川博 「実録『甲金録』翻刻と解題」飯田文彌編『中近世 甲斐の社会と文化』岩田書院、2005年
 石崎建治 「中世東国社会における永楽通宝嗜好性の一要因」『金沢学院大学紀要』（文学・美術・社会学編）6、2008年
 市古尚三 「元朝の交鈔専用制度について」『拓殖大学論集』5、1953年
 市古尚三 「宋元明に於ける中国銭の日本への流出と明代に於ける貨幣制度概説」『拓殖大学論集』9、1956年
 伊藤啓介 「(部会ニュース) 替銭と割符」『日本史研究』539、2007年
 伊藤啓介 「割符のしくみと為替・流通・金融」『史林』89-3、2006年
 井上泰也 「宋の鈔版をめぐる」『東方学』86、1993年
 井原今朝男 「災害と開発の税制史」『国立歴史民俗博物館研究報告』118、2004年
 入江芳之助 「甲州金の歴史」『甲斐路』（山梨郷土研究会）20、1971年
 岩村忍 「元時代における紙幣インフレーション」『東方学報』（京都大学人文科学研究所）34、1964年
 遠藤浩巳 「石見銀山遺跡研究の現状」『月刊 歴史手帖』24-12、名著出版、1996年
 大田由紀夫 「14・15世紀の渡来銭流入一中国中世日本の場合一」『歴史の理論と教育』（名古屋歴史科学研究会）128、2008年
 大田由紀夫 「12～15世紀初頭東アジアにおける銅銭の流布一日本・中国を中心として一」『社会経済史学』61-2、1995年
 大田由紀夫 「15・16世紀中国における銭貨流通」『東洋史研究報告』（名古屋大学）21、1997年
 大田由紀夫 「15・16世紀東アジアにおける銭貨流通一日本・中国を中心として一」『鹿児島大学法学部紀要（人文科学論集）』48、1998年
 大田由紀夫 「元末明初期における徽州府下の貨幣動向」『史林』76-4、1993年
 荻原三雄 「甲斐の諸金山」『考古学ジャーナル』487、2002年
 荻原三雄 「県内出土の甲州金」『山梨県史だより』22、2001年
 荻原三雄 「日本の金銀山遺跡の研究と今後の課題」『月刊 歴史手帖』24-12、1996年
 小畑弘己 「出土銭貨に見る中世九州・沖縄の銭貨流通」『熊本大文学部論叢』57、1997年
 川戸貴史 「16世紀後半関東の「永楽」と永楽銭」『出土銭貨』26、2007年
 川戸貴史 「中世後期日本における「地域通貨」の視点」『歴史の理論と教育』（名古屋歴史科学研究会）128、2008年
 菅野文夫 「中世後期の流通構造と撰銭」『年報中世研究』32、2007年
 菅野文夫 「中世における土地売買と質契約」『史学雑誌』93-9、1984年
 菅野文夫 「南宋時代淮南路の通貨問題一鉄銭交子の廃復をめぐる一」『東洋学報』44、1962年
 黒田明伸 「16・17世紀環シナ海経済と銭貨流通」『歴史学研究』711、1998年
 黒田基樹 「戦国大名の撰銭対策とその背景」『中近世移行期の大名権力と村落』校倉書房、2003年
 郡司勇夫 「鏝銭と模鑄銭の新考察」『泰星マンスリー』14-10、1985年
 児島吉裕 「輸入中国銭と中世の日本経済一平安後期から鎌倉期の通貨事情一」『明海大学経済学論集』14-1、2002年
 児島秀樹 「ダホメの宝貝通貨と奴隷貿易」『明星大学経済学研究紀要』37-1、2005年
 小島道裕・山本光正 「(資料紹介) 永禄6年北国下り遣足帳」『国立歴史民俗博物館研究報告』39、1992年
 小葉田淳 「中世産銅史考」『史林』16-2、1931年
 小林保夫 「兵庫北開入船納帳」にみる開銭納入システム」『塚女子短期大学紀要』40、2005年
 小林保夫 「兵庫北開入船納帳」にみる枝船」『立命館文学』605、2008年
 斎藤広宣 「近世初期から中期における甲州金について」『信濃』21-1、1969年
 照彦・西川裕一 「中世～近世初期の模鑄銭に関する理化学的研究」『金融研究』17-3、1998年
 桜井英治 「市庭地下人、番匠、檜皮師、壁塗、打物師、桶結、酒屋」高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門Ⅲ 人』東京大学出版会、1990年
 桜井英治 「Currency and Credit in Medieval Japan」『International Journal of Asian Studies』5-1、2008年
 桜井英治 「金堀と印判状一甲州黒川金山衆の近世化をめぐる一」石井進編『中世をひろげる一新しい史料論をもとめて一』吉川弘文館、1991年
 桜井英治 「貨幣からみた中世日本と東アジア」近藤茂一ほか編『中世 日本と西欧一多極と分権の時代一』吉川弘文館、2009年
 桜井英治 「中世史研究と贈与論の射程」『九州史学』145、2006年
 桜井英治 「中世の消費 それは何の価値か一差額の意味を探る一」『歴博』124、2004年
 桜井英治 「日本中世における貨幣と信用について」『歴史学研究』703、1997年
 桜井英治監修 「シリーズ 貨幣の歴史学」日本銀行『にちぎん』10、11、12、13、2007～2008年
 桜井英治編 『国立歴史民俗博物館研究報告』92（古代の流通経済一古代・中世の都市をめぐる流通と消費）、2002年
 桜井英治編 『国立歴史民俗博物館研究報告』113（流通・消費の場一古代・中世における流通・消費とその場）、2004年
 佐々木稔・西本右子 「公鑄銭・模鑄銭の材料組成と理工学的分類」『出土銭貨研究』2、2008年
 笹本正治 「武田氏の金山支配をめぐる一」『戦国大名武田氏の研究』思文閣出版、1993年
 佐藤泰弘 「庭訓往来 三百年の誤読」『日本史研究』530、2006年
 佐藤智智 「後北条氏の貨幣政策について」『後北条氏の基礎研究』吉川弘文館、1976年
 品治重忠 「替米について」『法学会雑誌』（首都大学東京・東京都立大学法学会）46-1、2006年
 品治重忠 「替銭と割符」『法学会雑誌』（東京都立大学法学会）44-1、2003年
 斯波義信 「宋代の消費・生産水準試探」『中国史学』（中国史学会）1、1991年
 斯波義信 「港市論一寧波港と日中海事史一」荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史Ⅲ 海上の道』東京大学出版会、1992年
 嶋谷和彦 「中世の模鑄銭生産一堺出土の銭鑄型を中心に一」『考古学ジャーナル』372、1994年
 清水久夫 「鎌倉時代における荘園年貢の代銭納化と在地領主制の展開」『法政史学』29、1977年
 清水克行 「大乗院尊尊の銭貨一覽表について」『出土銭貨』8、1997年
 下川雅弘 「「久世日記」小考一戦国期東寺の礼銭贈答一」『日本歴史』727、2008年
 下川雅弘 「『山科家礼記』にみる贈答とその機能」『研究紀要』（日本大学文理学部人文科学研究所）75、2008年
 下川雅弘 「贈与論と日本中世史研究」『史叢』（日本大学史学会）77、2007年
 下坂守 「中世土倉論」『中世寺院社会の研究』思文閣出版、2001年
 下村効 「鴨社領若狭国丹生浦一中世漁村の成立と発展、とくに代銭納・大網・網場相場について一」『国史学』89、1972年
 平山優 「近世初期甲州金成立過程の研究」飯田文彌編『中近世甲斐の社会と文化』岩田書院、2005年
 杉本直治郎 「中世における雲南の貝貨」『史学研究』（広島史学研究会）41、1950年
 鈴木公雄 「出土銭貨からみた中・近世移行期の銭貨動態」『歴史学研究』711、1998年
 鈴木公雄 「出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通」『史学』（三田史学会）61-3-4、1992年
 鈴木鋭彦 「鎌倉時代における山城国の土地売価と売買手段について」『愛知学院大学文学部紀要』7、1977年
 鈴木鋭彦 「中世における土地売券についての一考察一東大寺領大和国河上荘における売買手段と売価の動向一」『愛知学院大学論叢一般教育研究』14、1966年
 鈴木将典 「黒川金山衆の存在形態について」『武田氏研究』26、2002年
 妹尾守雄 「宋銭とわが中世経済」『国士館大学大学院紀要』2、1982年
 妹尾守雄 「輸入明銭と模鑄銭一室町時代の通貨事情一」『国士館大学大学院紀要』7、1987年
 高木久史 「16世紀後半越前における銭使用秩序の変容」『神戸大学史学年報』22、2007年

- 高木久史 「16世紀の替状に関する覚書—越前をフィールドに—」『越前町織田文化歴史館報』2、2007年
- 高木久史 「撰銭令の再検討—食料需給の視点から—」『ヒストリア』179、2002年
- 高木久史 「日本中世銭貨史の現在—十六世紀を中心に—」『歴史評論』667、2005年
- 高田倫子 「中世から近世移行期の銭貨流通—中国地方における考古資料を中心に—」『社会経済史学』73-4、2007年
- 田中浩司 「中世後期における「礼銭」「礼物」の授受について—室町幕府・別奉行・東寺五方などをめぐって—」『経済学論叢』（中央大学経済学研究会）35-4、1994年
- 田中浩司 「日本中世における銭の社会的機能をめぐって」『能ヶ谷出土銭調査報告書』能ヶ谷出土銭調査会・町田市教育委員会、1996年
- 千枝大志 「中・近世移行期における貨幣流通構造—特に南伊勢地域を事例として—」『皇学館論叢』32-5、1999年
- 千枝大志 「中近世移行期伊勢神宮周辺地域における永楽銭」『出土銭貨』26、2007年
- 千枝大志 「中近世移行期伊勢神宮周辺地域における銀の普及と伊勢御師の機能」『神道史研究』55-1、2007年
- 千枝大志 「中・近世移行期における金融業者の一試論—伊勢神宮周辺地域における「すわい」の存在形態を事例に—」『皇学館史学』18、2003年
- 徳川義宣 「徳川家康と甲州金—天神瓦を中心に—」『金鏡叢書』（徳川黎明会）24、1998年
- 鳥谷芳雄 「御公用丁銀について」『季刊文化財』115、2007年
- 鳥谷芳雄 「西洋古地図の中の石見銀山—七世紀の鉱山と地域情報—」『季刊文化財』116、2008年
- 鳥谷芳雄 「毛利博物館蔵の石州銀—一括資料について—」『古代文化研究』17、2009年
- 永井久美男 「「島銭」による埋蔵実年代の推定」『出土銭貨研究』2、2008年
- 永井久美男 「諏訪大社秋宮出土の金貨」『出土銭貨』14、2000年
- 中島圭一 「西と東の永楽銭」『中世の村と流通』吉川弘文館、1992年
- 中島圭一 「貨幣からみた「日本」—中世貨幣の成立から解体まで—」『環』6、2001年
- 中島圭一 「中世京都における土倉業の成立」『史学雑誌』101-3、1992年
- 中島圭一 「日本の中世貨幣と国家」『歴史学研究』711、1998年
- 中島圭一 「中世京都における祠堂銭金融の展開」『史学雑誌』102-12、1993年
- 中島圭一 「室町時代の経済」『日本の時代史11—一揆の時代—』吉川弘文館、2003年
- 中島圭一 「中世貨幣システムにおける私鑄銭の位置」『出土銭貨』23、2005年
- 中島善久 「摂津国能勢郡探銅所の知行・運営に関して」『大学院年報』（立正大学大学院文学研究科）17、1999年
- 中田健一・遠藤浩巳 「島根県石見銀山」『考古学ジャーナル』487、2002年
- 中森祥 「トラベル・セットの成立」『出土銭貨研究』2、2008年
- 西谷正浩 「中世日本の土地売買と土地所有—鎌倉・室町期の京郊地域における在地社会の所有構造—」『史学雑誌』109-10、2000年
- 西谷正浩 「売寄進について」『福岡大学人文論叢』28-4、1997年
- 西脇康 「文献に表れたわかれた甲州金と現物貨幣」『金山史研究』（甲斐黄金村・湯之奥金山博物館）5、2005年
- 西脇康 「甲州金の吹替・両替・金位」『山梨県史研究』12、2004年
- 野次昌康 「金山の掟—山例五十三ヶ条について—」植松又次先生頌寿記念論文集刊行会『甲斐中世史と仏教美術』名著出版、1994年
- 橋本雄 「肥後菊池氏の対外交流と禅宗・港町」『禅文化研究所紀要』26（永島福太郎先生卒寿記念論集）、2002年
- 服部英雄 「日本中世国家の貨幣発行権」『九州大学21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」統括ワークショップ報告書』2006年
- 服部春彦 「一六、七世紀におけるスペインの新世界貿易とフランス」『史林』66-6、1983年
- 濱本城弥 「織田信長天正十年の禁制に関する一考察—甲斐・信濃の礼銭免除をめぐって—」『史流』（北海道教育大学史学会）42、2007年
- 保立道久 「中世前期の新制と沽価法—都市王権の法、市場・貨幣・財政—」『歴史学研究』687、1996年
- 本郷恵子 「院庁務の成立と商工業統制」『中世公家政権の研究』東京大学出版会、1998年
- 本田精一 「『東京夢華録』の都市銭陌について」『東洋学』92、1996年
- 前田徹 「中世摂津・播磨の港津と海運—兵庫北関入船納帳を中心に—」『塵界』（兵庫県立歴史博物館）17、2006年
- 松永和浩 「室町期における公事用途調達方式の成立過程—「武家御訪」から段銭へ—」『日本史研究』527、2006年
- 松延康隆 「銭と貨幣の観念」『列島の文化史』6、1989年
- 三上隆三 「室町時代の貨幣経済」『経済理論』（和歌山大学経済学会）327、2005年
- 三上隆三 「銭貨時代から三貨制度時代への脱皮」『経済理論』（和歌山大学経済学会）328、2005年
- 三宅俊彦 「10-13世紀の東アジアにおける鉄銭の流通」『日本考古学』20、2005年
- 三宅俊彦 「中国窖藏銭の諸問題—宋・元・明を中心として—」『考古学雑誌』88-3、2004年
- 三宅俊彦 「中国における永楽通宝の出土事例—窖藏銭を中心として—」『出土銭貨』26、2007年
- 宮澤知之 「元代後半期の幣制とその崩壊」『鷹陵史学』28、2002年
- 宮澤知之 「明初の通貨政策」『鷹陵史学』27、2001年
- 石正行 「売寄進状の一形態」『古文書研究』44-45、1997年
- 山内晋次 「日宋貿易の展開」『日本の時代史11—一揆の時代—』吉川弘文館、2003年
- 山下孝司 「甲州金山研究の現状」『月刊 歴史手帖』24-12、1996年
- 大和谷郁美 「『兵庫北関入船納帳』から見る物価の変動」『北大史学』46、2006年
- 吉原道夫 「中国の銅山遺跡」『考古学ジャーナル』487、2002年
- 吉村亨 「京郊地域における貨幣経済の発達—中世における田島売買の意義と高利貸資本の成長—」『日本史研究』113、1970年
- 綿貫友子 「中世の都市と流通」『日本の時代史11—一揆の時代—』吉川弘文館、2003年

○展示図録

- 海のシルクロードの出発点「福建」展開催実行委員会編『東アジアの海とシルクロードの拠点 福建』2008年
- 大阪府立狭山池博物館『国土を拓いた金物たち』2007年
- 甲斐黄金村湯之奥金山博物館『甲斐黄金村湯之奥金山博物館展示図録』1997年
- 葛飾区郷土と天文の博物館『埋められた渡来銭—中世出土銭を探る—』平成12年
- 国立科学博物館『日本の鉱山文化—絵図が語る暮らしと技術—』1996年
- 国立科学博物館『GOLD 黄金の国ジバングとエル・ドラード展』2008年
- 国立歴史民俗博物館『東アジア中世海道 海商・港・沈没船』2005年
- 国立歴史民俗博物館『お金の玉手箱—銭貨の列島2000年史—』1997年
- 島根県立古代出雲歴史博物館・石見銀山資料館『輝きふたたび 石見銀山展』2007年
- 新潟県教育委員会・佐渡市教育委員会『金GOLD 黄金の国ジバングと佐渡金銀山展』2009年
- 山梨県立博物館『金GOLD 黄金の国ジバングと甲斐金山展』2009年

○その他（報告書等）

- 堺市立埋蔵文化財センター『堺環濠都市遺跡発掘調査概要報告』61、堺市教育委員会、1997年
- 黒川金山遺跡研究会、今村啓爾『甲斐黒川金山 山梨県塩山市に所在する戦国時代金山遺跡の総合調査』塩山市・塩山市教育委員会、1997年
- 桜木晋一（研究代表者）『九州・沖縄における中世貨幣の生産と流通』（1999～2001年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）2002年
- 島根県教育委員会『石見銀山関係編年史料綱目』島根県教育委員会、2002年
- 島根県教育委員会『石見銀山史料解説 銀山日記』島根県教育委員会、2003年
- 島根県教育委員会『世界遺産石見銀山遺跡とその文化的景観 公式記録誌』島根県教育委員会、2007年
- 島根県教育委員会ほか『石見銀山 石見銀山遺跡総合調査報告書』第1～6冊、島根県教育委員会、1999年
- 昭和女子大学国際文化研究所「ベトナム北部の一括出土銭の調査研究」『昭和女子大学国際文化研究所紀要』12、2008年
- 芳賀友博・寺内久永『村松白根遺跡 大強度陽子加速器施設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書I』（茨城県教育財団調査報告書第250集）上・下、財団法人茨城県教育財団、2005年

【写真・イラスト提供先】

以下の写真・イラストについては、下記機関等よりご提供をいただいた。特に、記載のないものは当館所蔵資料。

○2 ページ	
日元貿易船復元模型	国立歴史民俗博物館
○3 ページ	
志海苔出土銭	市立函館博物館
○4 ページ	
『平家物語絵巻』	林原美術館
○5 ページ	
『一遍上人絵伝』(福岡の市)	清浄光寺
博多遺跡出土陶磁器	福岡市埋蔵文化財センター
博多遺跡出土のパスパ文字資料	福岡市埋蔵文化財センター
日元貿易船復元模型	国立歴史民俗博物館
○6 ページ	
『山王霊験記絵巻』	和泉市久保惣記念美術館
『病草紙』(肥満の女)	福岡市美術館
『絵本庭訓往来』	東京学芸大学附属図書館
○8 ページ	
ティセラ 日本図	島根県立古代出雲歴史博物館
○9 ページ	
草戸千軒町遺跡出土資料銭塊 割符	広島県立歴史博物館 草戸千軒町遺跡研究所
『春日権現験記』	京都府立総合資料館 宮内庁三の丸尚蔵館
○10 ページ	
『一遍上人絵伝』(常陸国)	清浄光寺
○14 ページ	
無文銭鋳型と無文銭	堺市教育委員会
永楽通宝枝銭	東海村教育委員会
○19、20 ページ	
『一遍上人絵伝』(福岡の市)	清浄光寺
○21 ページ	
『橘直幹申文絵巻』	出光美術館
○21、22 ページ	
『七十一番職人歌合』	東京国立博物館
○22 ページ	
『松崎天神縁起絵巻』	防府天満宮
「永祿六年北国下り遺足帳」	国立歴史民俗博物館
○30 ページ	
高德院阿弥陀如来坐像	高德院
○32 ページ	
石見銀山遺跡 空中写真	島根県教育庁
樋押堀跡	島根県教育庁
大久保間歩	島根県教育庁
石見銀山遺跡 貴鉛・灰吹銀	大田市教育委員会
○32、33 ページ	
イラスト(灰吹法)7点	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
○33 ページ	
金採掘坑の調査風景	甲州市教育委員会
黒川谷の沢の中に残る磨り臼	甲州市教育委員会
出土土器に付着した金	甲州市教育委員会
勝沼町出土の金貨	個人
鉦山用具	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
○34 ページ	
オルテリウス タルタニア図	島根県立古代出雲歴史博物館

ご協力をいただいた機関 (50音順)

和泉市久保惣記念美術館
出光美術館
石見銀山世界遺産センター
大田市教育委員会
京都府立総合資料館
宮内庁三の丸尚蔵館
甲州市教育委員会
高德院
東京国立博物館
国立科学博物館
国立歴史民俗博物館
堺市教育委員会
清浄光寺
市立函館博物館
島根県教育庁
島根県立古代出雲歴史博物館
東海村教育委員会
東京学芸大学附属図書館
林原美術館
広島県立歴史博物館
福岡市美術館
福岡市埋蔵文化財センター
防府天満宮
山梨県立博物館
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

企画展・“びた1文”に秘められた歴史

海を越えた中世のお金

[会期]

2009年10月10日(土)～2010年3月14日(日)

[編集・企画]

佐藤大樹
関口かをり
湯川紅美

日本銀行金融研究所

貨幣博物館

電話: 03-3277-3037(直通)
〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町 2-1-1

<http://www.imes.boj.or.jp/cm>

2009年11月16日発行